

平成24年

新入社員 意識調査

平成24年8月



ホームページ・アドレス
<http://www.a-bank.jp/>

も く じ

はじめに	1
調査要領	1
調査結果の概要	2
Q 1. 会社を選ぶ際の重視項目	3
Q 2. 会社を選ぶ際に相談した人	4
Q 3. 県内就職の理由	5
Q 4. 社会人としての不安	6
Q 5. 社会人として大切なもの	7
Q 6. 昇給・昇格の基準について	8
Q 7. 今の会社でいつまで働きたいか	9
Q 8. 『会社・仕事』と『家庭・生活』のどちらを重視するか	10
Q 9. 『ゼネラリスト』と『スペシャリスト』のどちらを目指すか ...	11
Q10. 上司に求めるもの	12
Q11. 理想の上司を有名人にたとえると	13
Q12. 初月給の使いみちは	14
Q13. 仕事をするにあたり、身につけたい知識・技術は	15
Q14. 自分をPRする言葉は	16
社会人となり、改めて感じることは（自由回答）	17

はじめに

青森県の新規学卒者の就職状況は厳しさが続いています。今年も多くの新入社員が期待と不安を胸に、社会人としての第一歩を踏み出しました。

企業にとって新入社員は将来を担う大切な財産です。厳しい就職戦線をくぐり抜け、晴れて企業の一員となった新入社員はどのような意識を持って日常の仕事に取り組んでいるのでしょうか。

本調査は、昭和52年から、このような新入社員の意識、考え方を調査し、その結果をまとめて公表しているものです。新入社員の意識、考え方をすることで、これからの社内教育、研修等の参考にいただければ幸いです。

最後になりますが、本調査に際しましてご協力いただきました新入社員の方々に厚くお礼申し上げます。

調査要領

- 方 法 アンケート方式
- 対 象 者 県内民間企業 平成24年度新入社員 197名
- 実施時期 平成24年4月
- 回 答 者 197名
- 回答者内訳

	男性		女性		合計	
	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)
高 校 卒	40	20.3	58	29.4	98	49.7
専門学校卒	9	4.6	18	9.1	27	13.7
短 大 卒	0	0.0	9	4.6	9	4.6
大 学 卒	33	16.8	30	15.2	63	32.0
合 計	82	41.6	115	58.4	197	100.0

※本調査は、青森銀行のホームページ(<http://www.a-bank.jp/>)にて公開しております。

【本件に関する照会先】

一般財団法人 青森地域社会研究所

担 当： 野 里

TEL 017-777-1511

調査結果の概要

1. 就職にあたって

- 会社選びのポイントは「仕事が自分に合っている」がトップ、以下「社会的貢献度が高い」、「通勤に便利である」の順となった。
- 会社を選ぶ際に相談した人は、「家族(親・兄弟)」がトップで4割以上を占めた。
- 県内就職の理由は「地元のほうが生活が楽だから」がトップとなり、生活重視志向が高まっている。

2. 社会人として

- 就職して不安に感じることは、「仕事についていけるか」がトップ、「職場の人間関係」が2位となり、この上位2項目が8割以上を占めた。
- 社会人として大切なものは、「責任感」がトップ、次いで「協調性」、「応用力・適応力」の順となった。
- 昇給・昇格の基準は、「能力主義と年功序列の両方が取り入れられた型」がトップ、次いで「能力・業績が重視される型」となり、能力・業績を反映して欲しいとの希望が8割近くを占めた。
- 今の会社では「定年まで働きたい」がトップとなった。また、女性の「結婚・出産を機に辞めたい」の割合が減少した。
- 「会社・仕事」よりも「家庭・生活」を重視したいとする人は、7割以上を占めた。
- 「ゼネラリスト」志向、「スペシャリスト」志向は、ほぼ同じ割合となった。

3. 上司について

- 男性上司には「指導力」と「信頼感」、女性上司には「優しさ」と「信頼感」などを求めている。
- 理想の上司を有名人にたとえると、男性上司では「所ジョージ」と「阿部寛」、女性上司では「天海祐希」がトップに選ばれた。

4. 初月給の使いみちは

- 初月給の使いみちは、「預金をする」がトップ、次いで「家族へのプレゼント」「自分の欲しいものを買う」の順となった。

5. 自分自身のことについて

- 仕事をするにあたって、身につけたい知識・技術は「情報処理に関する知識・技能」がトップ、「経理・財務に関する知識」、「語学力」などの順となった。
- 自分をPRする言葉は、「明るい」、「まじめ」、「楽観的」などの順で挙げられた。

Q1. 会社を選ぶ際の重視項目

～「仕事が自分に合っている」がトップ～

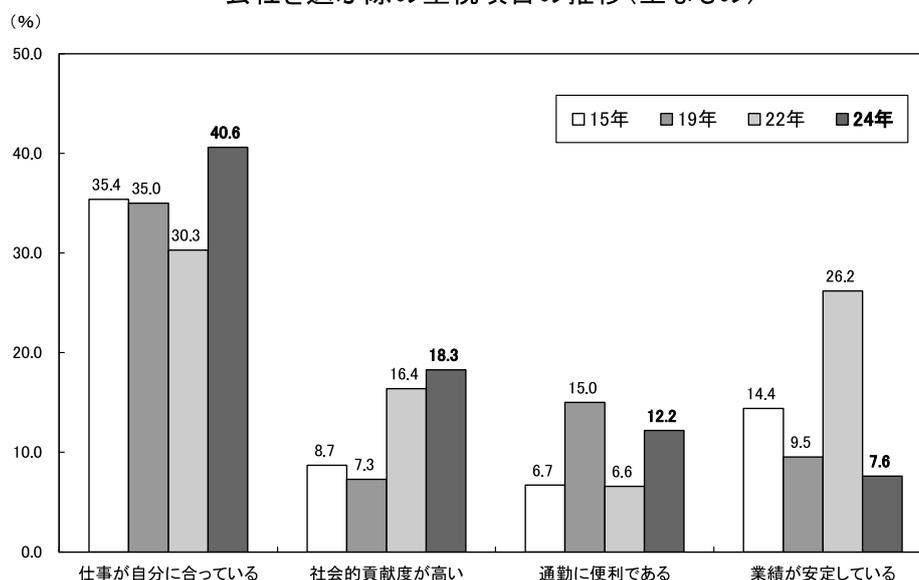
今年の新入社員が、就職する会社を選ぶにあたって重視した項目を尋ねたところ、「仕事が自分に合っている」が40.6%でトップとなり、次いで「社会的貢献度が高い」が18.3%、「通勤に便利である」が12.2%、「業績が安定している」が7.6%などと続いた。「自分に合っている」、「社会的貢献度」は前回までの調査に比べ高い割合を示しており、自分の適性、社会的責任をより重視している様子が見えられた。一方、「業績安定」は前回調査に比べ大きく落ち込んだ。

男女別にみると、男女とも上位3項目の順位は全体と同じであったが、女性は「社会的貢献度」の割合が高かった。それ以外の項目では、男性は「会社の将来性・規模」の割合が女性より高く、女性は「給料が高い」の割合が男性より高かった。

学卒別にみると、それぞれトップは「自分に合っている」となった。高校卒は全体と同じ順位となったが、専門学校・短大卒、大学卒では幾分バラツキがみられた。大学卒は「社会的貢献度」の割合が他よりも高かったが、「通勤に便利」は低い割合となった。専門学校・短大卒では「通勤に便利」の割合が2位となった。高校卒で「会社に将来性がある」「給料が高い」の割合が他よりも高かった。

	男性		女性		高校卒		専・短卒		大学卒		合計	
仕事が自分に合っている	①	42.7	①	39.1	①	41.8	①	36.1	①	41.3	①	40.6
社会的貢献度が高い	②	13.4	②	21.7	②	14.3	③	19.4	②	23.8	②	18.3
通勤に便利である	③	12.2	③	12.2	③	12.2	②	22.2		6.3	③	12.2
業績が安定している		8.5		7.0		8.2		5.6		7.9		7.6
会社に将来性がある		8.5		5.2		10.2		0.0		4.8		6.6
給料が高い		2.4		7.0		8.2		0.0		3.2		5.1
有名で会社の規模も大きい		4.9		0.9		3.1		2.8		1.6		2.5
その他		7.3		7.0		2.0		13.9		11.1		7.1

会社を選ぶ際の重視項目の推移(主なもの)



Q2. 会社を選ぶ際に相談した人

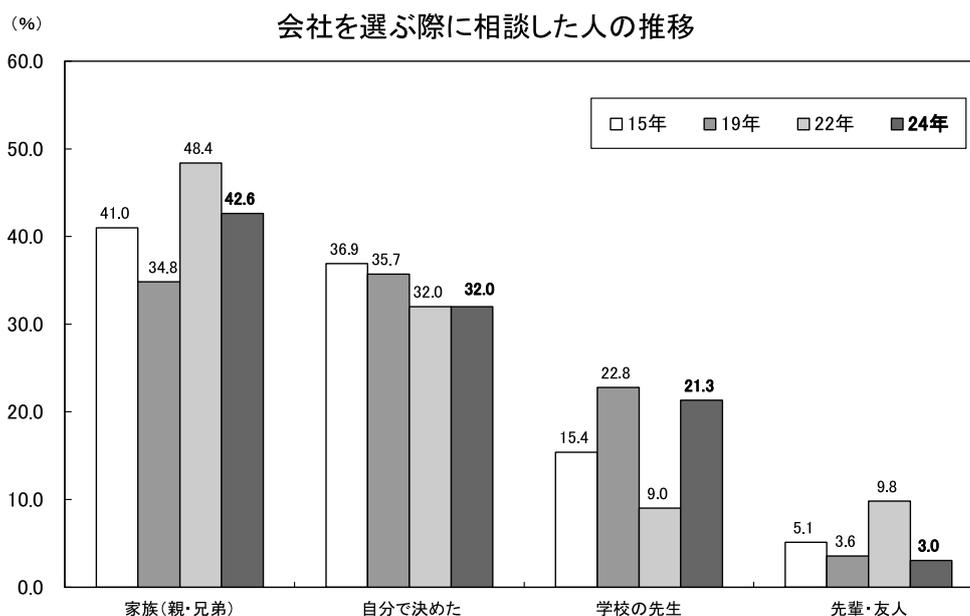
～相談相手は「家族(親・兄弟)」がトップ～

会社を選ぶ際に相談した人は、「家族(親・兄弟)」が 42.6%と最も高かった。次いで「自分で決めた」が 32.0%、「学校の先生」が 21.3%、「先輩・友人」が 3.0%の順となり、「親戚」は 0%であった。

男女別にみると、男女とも「家族(親・兄弟)」がトップとなり、ほぼ同じ割合を示した。男性は「学校の先生」の割合が「自分で決めた」を幾分上回り 2 位となった。女性は全体と順位は同じであったが、「自分で決めた」が男性を大きく上回った。

学卒別にみると、大学卒、専門学校・短大卒では「自分で決めた」がトップとなり、「家族(親・兄弟)」が 2 位となった。大学卒は「自分で決めた」が 46.0%と他に比べ高い割合となった。高校卒は「家族(親・兄弟)」が 54.1%と過半数を占め、「自分で決めた」と「学校の先生」が同率で 2 位となった。今回の調査では、高学歴になるにつれ「家族(親・兄弟)」の割合が減少する一方、「自分で決めた」の割合は増加がみられた。

	男性		女性		高校卒		専・短卒		大学卒		合計	
家族(親・兄弟)	①	42.7	①	42.6	①	54.1	②	33.3	②	30.2	①	42.6
自分で決めた	③	25.6	②	36.5	②	21.4	①	36.1	①	46.0	②	32.0
学校の先生	②	26.8	③	17.4	②	21.4	③	27.8	③	17.5	③	21.3
先輩・友人		3.7		2.6	③	2.0		2.8		4.8		3.0
親戚		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
その他		1.2		0.9		1.0		0.0		1.6		1.0



Q3. 県内就職の理由

～「地元のほうが生活が楽だから」がトップ、生活重視志向が高まる～

県内就職をした理由は、「地元のほうが生活が楽だから」が35.0%でトップ、次いで「青森県が好きだから」が23.9%、「地元のために自分の力を発揮したい」が18.8%などと続いた。前回調査と比べると、「生活が楽だから」の割合が大幅に増加する一方で、「自分の力を発揮したい」は大幅に減少した。

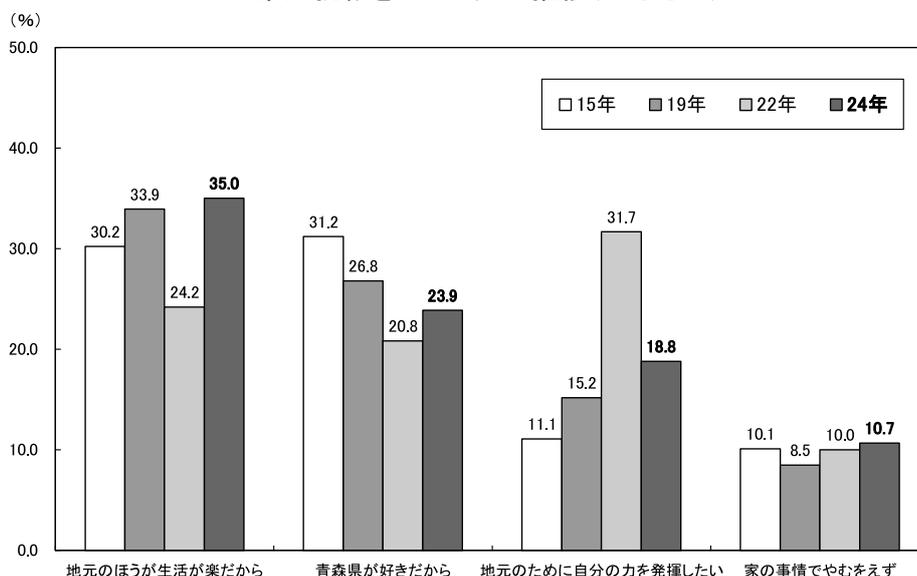
男女別にみると、男女とも「生活が楽だから」がトップとなり、ほぼ同じ割合を示した。男性は「自分の力を発揮したい」が25.6%となり、「青森県が好きだから」を上回った。一方、女性は全体と同じ順位となった。

学卒別にみると、それぞれの上位3項目の順位は全体と同じであったが、割合については多少バラツキがみられた。大学卒は「自分の力を発揮したい」が23.8%と他に比べ高い割合となり、地元への貢献・チャレンジ志向がうかがわれた。専門学校・短大卒は「生活が楽だから」が44.4%と他に比べ高い割合となり、生活重視志向がうかがわれた。高校卒は全体とほぼ同じ構成割合となったが、「家の事情でやむを得ず」が15.3%と他に比べ高い割合を示した。

今回調査では、全体に生活重視志向が地元への貢献・チャレンジ志向を上回っている様子がうかがわれる。

	男性	女性	高校卒	専・短卒	大学卒	合計
地元のほうが生活が楽だから	① 34.1	① 35.7	① 35.7	① 44.4	① 28.6	① 35.0
青森県が好きだから	③ 20.7	② 26.1	② 22.4	② 25.0	② 25.4	② 23.9
地元のために自分の力を発揮したい	② 25.6	③ 13.9	③ 16.3	③ 16.7	③ 23.8	③ 18.8
家の事情でやむを得ず	12.2	9.6	15.3	2.8	7.9	10.7
ただ何となく	2.4	6.1	6.1	5.6	1.6	4.6
その他	4.9	8.7	4.1	5.6	12.7	7.1

県内就職をした理由の推移(主なもの)



Q4. 社会人としての不安

～「職場の人間関係」への不安が増加～

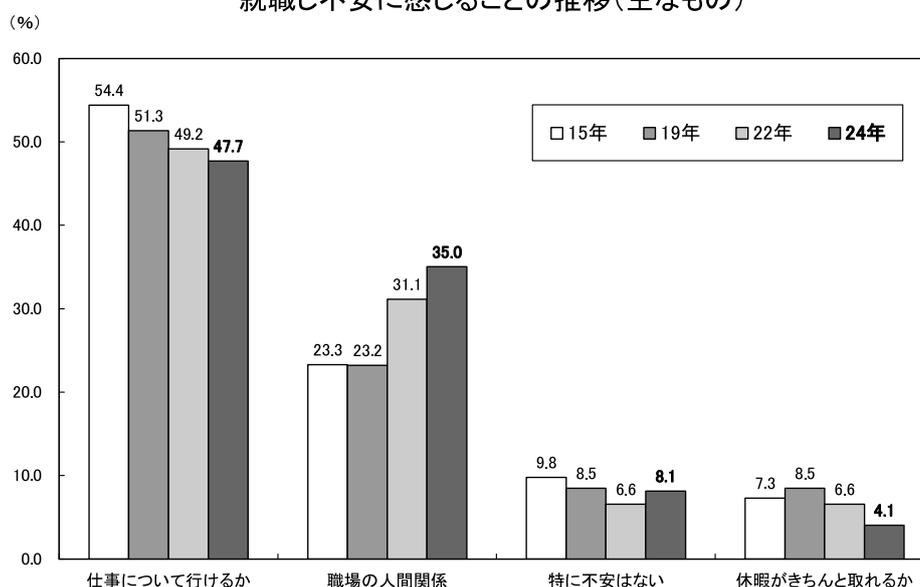
社会人としてスタートを切った新入社員が抱えている不安は、「仕事について行けるかどうか」が 47.7%でトップとなった。次いで「職場の人間関係」が 35.0%、「特に不安はない」が 8.1%などと続いた。上位 2 項目の順位は前回調査と同様であり、この 2 項目で全体の 8 割以上を占めた。これまでの調査結果をみると、「仕事についていけるか」の割合が減少する一方で、「職場の人間関係」の割合は増加傾向にあり、対人関係、コミュニケーションに対する不安が強まっている様子が見られる。

男女別では、男性は「仕事について行けるか」が 51.2%と過半数を占めトップとなった。また、「希望の仕事が任されるか」が 3 位となり、これから自分が就く仕事の職種・内容を気にしている様子が見られた。女性は順位、割合とも全体とほぼ同じ内容となった。

学卒別にみると、それぞれトップは「仕事について行けるか」となったが、専門学校・短大卒は 55.6%と他に比べ高い割合となった。また、専門学校・短大卒は「職場の人間関係」が 19.4%と他に比べ低い割合となった。大学卒は「希望の仕事が任されるか」の割合が比較的高かった。高校卒は全体とほぼ同じ構成割合となった。

	男性	女性	高校卒	専・短卒	大学卒	合計
仕事について行けるか	① 51.2	① 45.2	① 48.0	① 55.6	① 42.9	① 47.7
職場の人間関係	② 31.7	② 37.4	② 37.8	② 19.4	② 39.7	② 35.0
特に不安はない	4.9	③ 10.4	③ 7.1	② 19.4	3.2	③ 8.1
休暇がきちんと取れるか	3.7	4.3	4.1	③ 5.6	3.2	4.1
希望の仕事が任されるか	③ 6.1	0.9	2.0	0.0	③ 6.3	3.0
その他	2.4	1.7	1.0	0.0	4.8	2.0

就職し不安に感じることの推移(主なもの)



Q5. 社会人として大切なもの（2項目まで選択）

～「責任感」がトップ、「協調性」、「応用力・適応力」が続く～

社会人として大切だと思うことは、「責任感」が 52.3%でトップとなった。次いで「協調性」が 38.6%、「応用力・適応力」が 28.9%などと続き、上位 5 位までは前回調査と同じ順位となった。「責任感」は調査項目開始の昭和 56 年以降、毎回トップに挙げられている。

男女別でみると、男性は「自己開発・向上意欲」が 25.6%で 3 位となり、「辛抱強さ」(23.2%)の割合も高かった。女性は全体と同じ順位となったが、「責任感」、「協調性」、「応用力・適応力」の割合が男性を上回る一方、「自己啓発」、「健康」、「自発性」では下回っており、男女間で違いがみられた。

学卒別にみると、専門学校・短大卒、高校卒ではトップが「責任感」となった。一方、大学卒では「協調性」がトップとなり、人間関係を重視している様子が見えられた。専門学校・短大卒では「協調性」、「応用力・適応力」が同率で 2 位となり、3 位は「辛抱強さ」となった。高校卒は「責任感」、「自己啓発・向上意欲」の割合が他に比べ高かった。また、「健康」の割合は学歴が高くなるにつれて高くなっている。

	男性		女性		高校卒		専・短卒		大学卒		合計	
責任感	①	48.8	①	54.8	①	60.2	①	52.8	②	39.7	①	52.3
協調性	②	32.9	②	42.6	②	33.7	②	36.1	①	47.6	②	38.6
応用力・適応力		24.4	③	32.2	③	25.5	②	36.1	③	30.2	③	28.9
辛抱強さ		23.2		23.5		24.5	③	27.8		19.0		23.4
自己啓発・向上意欲	③	25.6		19.1		24.5		19.4		19.0		21.8
健康		15.9		7.8		7.1		11.1		17.5		11.2
自発性		12.2		4.3		8.2		5.6		7.9		7.6
その他		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0

15年	19年	22年	24年
責任感 ① 58.3	責任感 ① 57.1	責任感 ① 60.3	責任感 ① 52.3
自己啓発 ② 28.4	応用力 ② 32.6	協調性 ② 40.5	協調性 ② 38.6
応用力 ③ 27.8	自己啓発 ③ 26.8	応用力 ③ 25.6	応用力 ③ 28.9
健康 ④ 27.3	辛抱強さ ④ 23.2	辛抱強さ ④ 21.5	辛抱強さ ④ 23.4
辛抱強さ ⑤ 20.6	協調性 ⑤ 19.6	自己啓発 ⑤ 19.0	自己啓発 ⑤ 21.8
協調性 ⑥ 19.1	健康 ⑥ 17.0	自発性 ⑥ 9.9	健康 ⑥ 11.2
自発性 ⑦ 7.7	自発性 ⑦ 5.8	健康 ⑦ 9.1	自発性 ⑦ 7.6
その他 ⑧ 1.6	その他 ⑧ 0.9	その他 ⑧ 1.7	その他 ⑧ 0.0

Q6. 昇給・昇格の基準について

～「能力・業績を反映」が 8 割近くを占める～

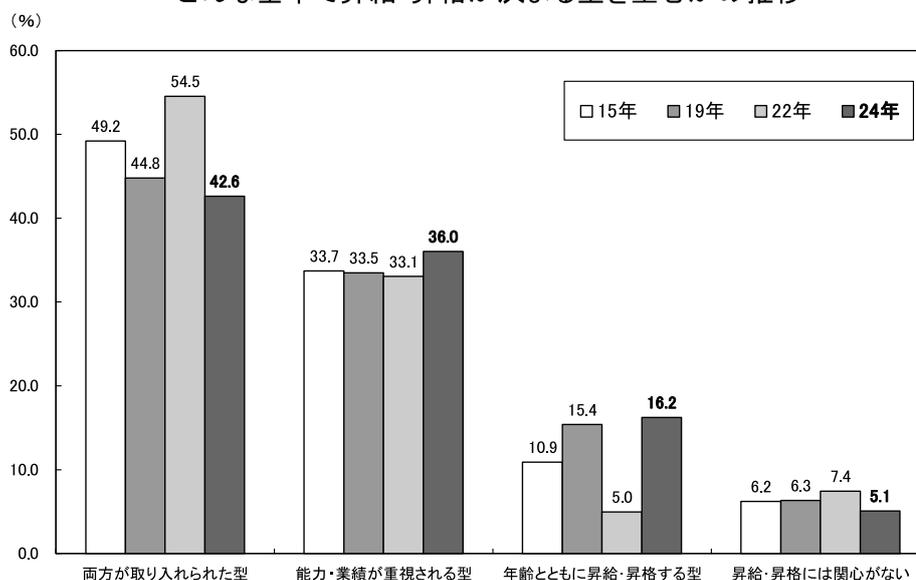
新入社員が望んでいる昇給・昇格の基準は、「能力主義と年功序列の両方が取り入れられた型」が 42.6%でトップ、次いで「能力・業績が重視される型」が 36.0%、「年齢とともに昇給・昇格する型」が 16.2%、「昇給・昇格には関心がない」が 5.1%の順となった。前回調査に比べ「両方が取り入れられた型」が 11.9 ポイント減少したものの、能力・業績を昇給・昇格に反映して欲しいとの回答は併せて 8 割近くを占めた。また、「年齢とともに昇給・昇格する型」は 11.2 ポイント増加しており、年功序列型への希望も目立った。

男女別にみると、男女とも順位は全体と同様であったが、男性は「両方が取り入れられた型」の割合が高く、女性は「能力・業績が重視される型」、「年齢とともに昇給・昇格する型」が高かった。

学卒別にみると、大学卒、専門学校・短大卒は「両方が取り入れられた型」の割合が過半数を占めトップとなったが、高校卒は「能力・業績が重視される型」がトップとなった。また専門学校・短大卒は「年齢とともに昇給・昇格する型」の割合が他に比べ低い割合となった。

	男性		女性		高校卒	専・短卒	大学卒	合計		
両方が取り入れられた型	①	45.1	①	40.9	②	33.7	①	50.8	①	42.6
能力・業績が重視される型	②	34.1	②	37.4	①	42.9	②	30.6	②	36.0
年齢とともに昇給・昇格する型		14.6		17.4		17.3		11.1		17.5
昇給・昇格には関心がない		6.1		4.3		6.1		5.6		3.2

どんな基準で昇給・昇格が決まる型を望むかの推移



Q7. 今の会社でいつまで働きたいか

～女性の「結婚・出産を機に辞めたい」がさらに減少～

今の会社への定着度については、「定年まで働きたい」が 44.9%でトップとなった。次いで「とりあえず今の会社で働く」が 40.8%、「結婚したら辞めたい」が 7.7%、「技術や資金ができれば独立したい」が 5.6%などと続いた。「とりあえず今の会社で働く」は前回調査に比べ 7.2 ポイント増加した。また、「技術や資金ができれば独立したい」は減少傾向にある。

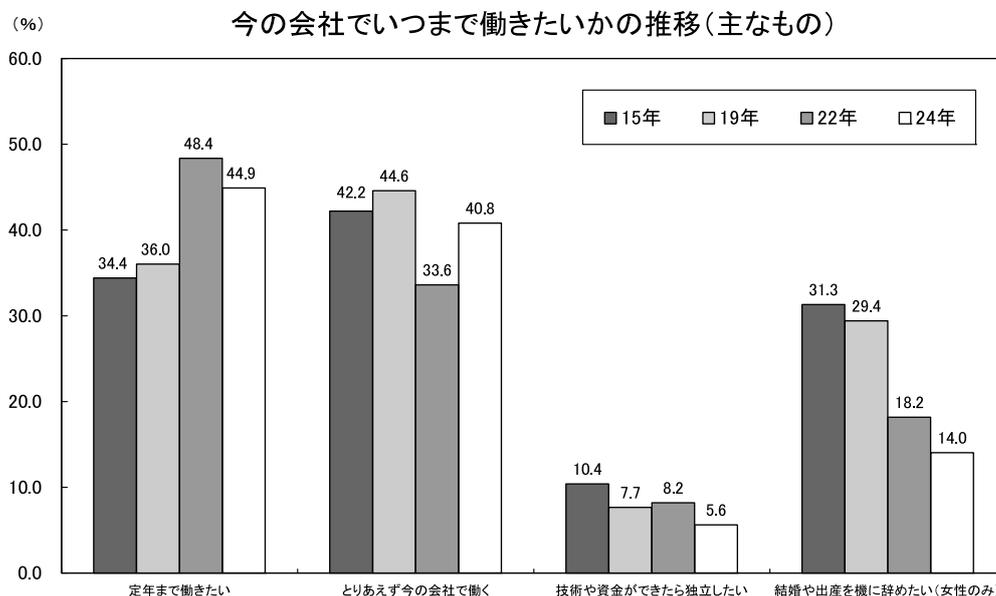
男女別にみると、男性は「定年まで働きたい」が 56.1%と過半数を占め、「技術や資金ができれば独立したい」は 11.1%と女性を 9.2 ポイント上回った。一方、女性は「とりあえず今の会社で働く」が 47.4%でトップとなった。「結婚や出産を機に辞めたい」とする割合(女性のみ)は、前回調査で大幅な減少がみられたが、今回も 14.0%とさらに減少した。このうち、今回調査では「子供ができれば辞めたい」とする割合の低さが目立っており、女性の仕事に対する意識の変化がうかがわれる。

学卒別にみると、高校卒は「定年まで働きたい」が半数を占めトップとなったが、大学卒、専門学校・短大卒は「とりあえず今の会社で働く」がトップとなった。また、「技術や資金ができれば独立したい」は大学卒が11.1%となったが、専門学校・短大卒ではゼロ回答となった。

今の会社でいつまで働きたいか

(単位:%)

	男性	女性	高校卒	専・短卒	大学卒	合計
定年まで働きたい	① 56.1	② 36.8	① 50.0	② 40.0	② 39.7	① 44.9
とりあえず今の会社で働く	② 31.7	① 47.4	② 34.7	① 48.6	① 46.0	② 40.8
技術や資金ができれば独立したい	③ 11.0	1.8	4.1	0.0	③ 11.1	5.6
子供ができれば辞めたい	0.0	1.8	1.0	2.9	0.0	1.0
結婚したら辞めたい	1.2	③ 12.3	③ 10.2	③ 8.6	3.2	③ 7.7
参考:結婚や出産を機に辞めたい(女性のみ)		14.0	17.2	15.4	6.7	14.0



Q8. 「会社・仕事」と「家庭・生活」のどちらを重視するか

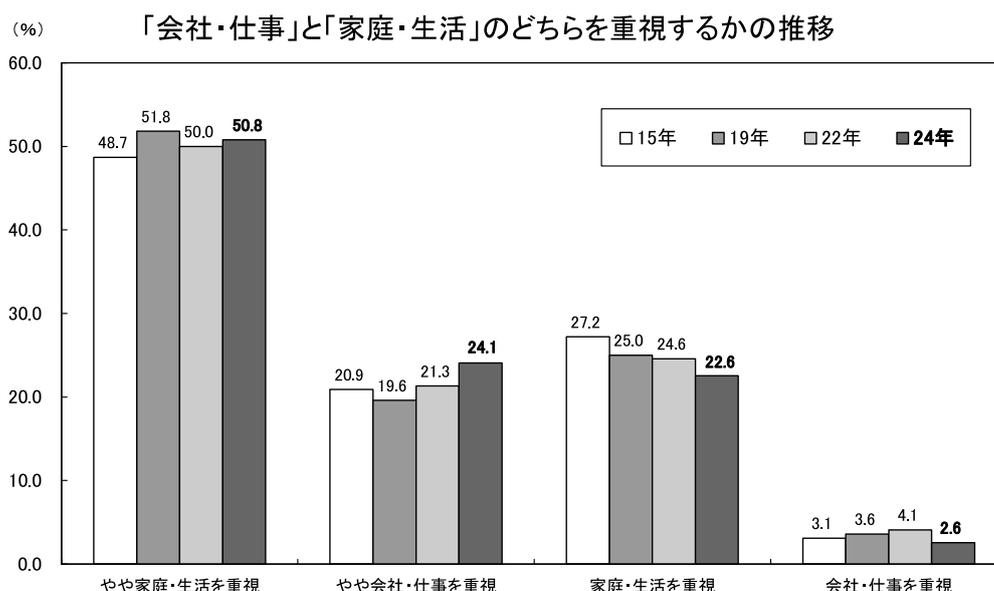
～7割以上が「家庭・生活」を重視～

目指す社員像は、「会社・仕事重視型」か「家庭・生活重視型」かを尋ねたところ、「やや家庭・生活を重視」が50.8%でトップ、次いで「やや会社・仕事を重視」が24.1%、「家庭・生活を重視」が22.6%、「会社・仕事を重視」が2.6%の順となった。「家庭・生活を重視」を重視するタイプが全体の7割以上を占め、ライフスタイルが会社中心よりは生活中心となっていることがうかがわれる。一方、前回3位の「やや会社・仕事を重視」は2.8ポイント増加し2位となった。

男女別にみると、女性は「やや家庭・生活を重視」の割合が男性を8.7ポイント上回った。一方、男性は「やや会社・仕事を重視」が女性を5.3ポイント上回った。

学卒別にみると、それぞれ「やや家庭・生活を重視」がトップとなった。一方、「会社・仕事を重視」を重視するタイプは大学卒で3割を超えたが、高校卒、専門学校・短大卒では2割前後となり、学卒別にバラツキがみられた。

	男性	女性	高校卒	専・短卒	大学卒	合計
やや家庭・生活を重視	① 45.7	① 54.4	① 50.0	① 61.1	① 46.0	① 50.8
やや会社・仕事を重視	② 27.2	② 21.9	② 22.9	② 16.7	② 30.2	② 24.1
家庭・生活を重視	23.5	② 21.9	② 27.1	② 19.4	17.5	22.6
会社・仕事を重視	3.7	1.8	0.0	2.8	6.3	2.6



Q9. 「ゼネラリスト」と「スペシャリスト」のどちらを目指すか

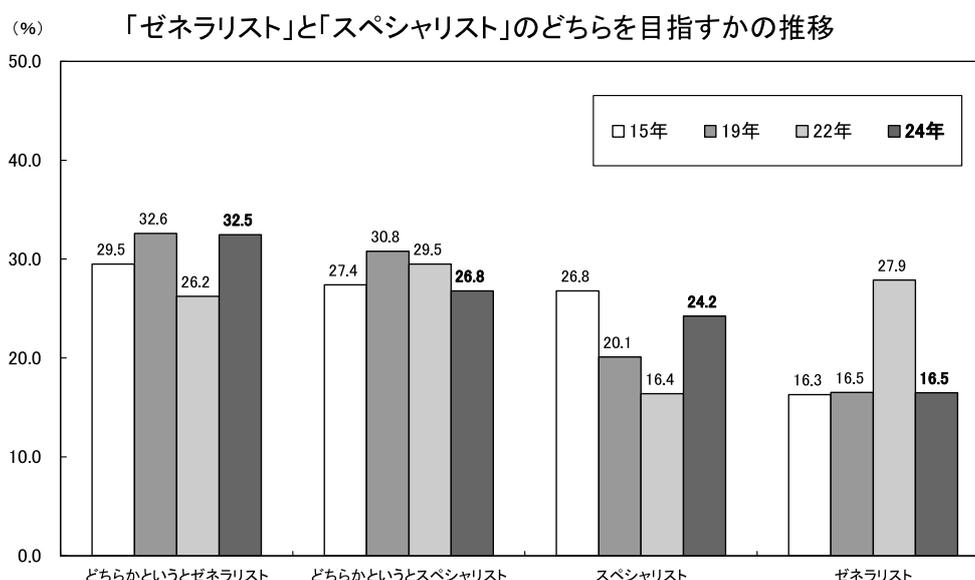
～「ゼネラリスト」、「スペシャリスト」志向は、ほぼ同じ割合～

将来、職場で目指すのは、幅広い業務をこなす「ゼネラリスト」か、あるいは専門分野に秀でた「スペシャリスト」かを尋ねたところ、「どちらかというゼネラリスト」が 32.5%でトップとなり、次いで「どちらかというスペシャリスト」が 26.8%、「スペシャリスト」が 24.2%「ゼネラリスト」が 16.5%の順となった。ゼネラリスト、スペシャリスト別の合計では、ゼネラリストが 49.0%、スペシャリストが 51.0%となった。前回調査ではゼネラリスト志向が強かったが、今回はほぼ同じ割合となった。

男女別にみると、女性は全体とほぼ同じ割合となったが、男性は「どちらかというゼネラリスト」と「どちらかというスペシャリスト」が同率でトップとなり、「スペシャリスト」も高い割合となった。男性はスペシャリスト志向が強く、女性はゼネラリスト志向が強い傾向がうかがわれた。

学卒別にみると、それぞれ順位にバラツキがみられた。ゼネラリスト志向は高校卒が強く、54.2%となった。一方、スペシャリスト志向は大学卒が 54.9%、専門学校・短大卒は 58.4%となった。

	男性		女性		高校卒	専・短卒	大学卒	合計
どちらかというゼネラリスト	① 28.4	① 35.4	① 35.4	① 30.6	② 29.0	① 32.5		
どちらかというスペシャリスト	① 28.4	② 25.7	21.9	① 30.6	① 32.3	② 26.8		
スペシャリスト	② 27.2	22.1	② 24.0	② 27.8	22.6	24.2		
ゼネラリスト	16.0	16.8	18.8	11.1	16.1	16.5		



Q10. 上司に求めるもの

～男性上司には「指導力」、「信頼感」など力強さ、
女性上司には「優しさ」、「信頼感」など精神的な拠りどころ～

職場で最も身近に接することの多い上司に対して、新入社員が求めているものを尋ねてみた。それによると、男性社員が男性上司に求めているものは「指導力」が 33.8%でトップ、次いで「信頼感」が 28.8%、「行動力」が 10.0%などと続いた。また、女性上司に求めているものは「優しさ」が 31.6%、「明るさ」が 21.5%、「信頼感」が 13.9%などと続いた。

一方、女性社員が男性上司に求めているものは「信頼感」が 27.7%でトップ、次いで「指導力」が 26.8%、「決断力」が 14.3%などと続いた。また、女性上司に求めているものは「優しさ」が 33.9%、「信頼感」が 30.4%、「指導力」が 18.8%などと続いた。

男女とも男性上司には「指導力」、「信頼感」といった頼りがいのあるイメージのほか、「行動力」、「決断力」といった力強さを求めている。一方、女性上司には、「優しさ」、「信頼感」のほか、「明るさ」、「指導力」、「包容力」といった精神的な拠りどころを求めている。

男性新入社員が上司に求めるもの (単位:%)

男性上司には						女性上司には					
19年		22年		24年		19年		22年		24年	
指導力	43.5	指導力	48.2	指導力	33.8	優しさ	32.6	優しさ	32.1	優しさ	31.6
信頼感	35.5	信頼感	26.8	信頼感	28.8	明るさ	20.0	信頼感	19.6	明るさ	21.5
決断力	8.0	決断力	8.9	行動力	10.0	知性	13.3	包容力	16.1	信頼感	13.9
行動力	3.6	行動力	5.4	決断力	8.8	包容力	11.1	明るさ	10.7	指導力	11.4
厳しさ	2.9	厳しさ	3.6	優しさ	6.3	信頼感	9.6	知性	8.9	包容力	8.9
優しさ	2.9	明るさ	3.6	明るさ	3.8	指導力	8.9	指導力	7.1	知性	7.6
包容力	1.4	優しさ	1.8	知性	3.8	行動力	3.0	行動力	5.4	行動力	2.5
明るさ	0.7	その他	1.8	包容力	2.5	決断力	0.7	決断力	0.0	決断力	1.3
知性	0.7	包容力	0.0	厳しさ	1.3	厳しさ	0.7	厳しさ	0.0	厳しさ	1.3
その他	0.7	知性	0.0	その他	1.3	その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0

女性新入社員が上司に求めるもの (単位:%)

男性上司には						女性上司には					
19年		22年		24年		19年		22年		24年	
指導力	31.4	指導力	34.8	信頼感	27.7	信頼感	36.5	信頼感	31.8	優しさ	33.9
信頼感	27.9	信頼感	18.2	指導力	26.8	優しさ	28.2	優しさ	25.8	信頼感	30.4
決断力	14.0	行動力	18.2	決断力	14.3	指導力	12.9	包容力	12.1	指導力	18.8
行動力	9.3	包容力	13.6	包容力	11.6	包容力	8.2	指導力	10.6	包容力	8.0
包容力	8.1	決断力	10.6	行動力	8.0	行動力	3.5	決断力	6.1	明るさ	3.6
優しさ	3.5	優しさ	1.5	優しさ	8.0	厳しさ	3.5	行動力	4.5	知性	2.7
明るさ	3.5	明るさ	1.5	厳しさ	1.8	知性	3.5	明るさ	4.5	決断力	1.8
厳しさ	1.2	知性	1.5	知性	1.8	明るさ	2.4	知性	4.5	行動力	0.9
知性	1.2	厳しさ	0.0	明るさ	0.0	決断力	1.2	厳しさ	0.0	厳しさ	0.0
その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0

Q11. 理想の上司を有名人にたとえると

～男性では「所ジョージ」、女性では「天海祐希」～

新入社員が考える理想の上司を有名人にたとえると、男性上司ではバラエティ番組などで活躍するマルチタレントの「所ジョージ」とモデル出身のテレビ・映画俳優「阿部寛」が同率でトップとなった。次いで俳優の「向井理」が2位、アイドルグループのメンバーでニュースキャスターなども務める「櫻井翔」、コメディアン「関根勤」が同率で3位となった。4位には「福山雅治」、「イチロー」がランクインした。「所ジョージ」は平成15年の調査以来4回連続でトップとなり根強い人気が続いていることをうかがわせた。

一方、女性上司では女優の「天海祐希」が前回に引き続きトップとなった。次いで女優の「真矢みき」が2位、同じく女優の「篠原涼子」が3位となり、女優の「仲間由紀恵」、「江角マキコ」が同率で4位にランクインした。今回の上位2名はいずれも元宝塚歌劇団男役のトップスターであり、ドラマの中で見せる優しさと凛々しさを兼ね備えたイメージに、上司として共感する部分があるのであろう。

ランクインした顔ぶれをみると、男性上司、女性上司とも多くの映画・ドラマでボス役や中間管理職を演じている俳優が多くみられた。また、バラエティ番組で司会を務めるタレントやスポーツ選手などが挙げられており、メディアの影響が大きいことをうかがわせた。このほか今回調査で名前が挙がった有名人は、女子サッカー「なでしこジャパン」の佐々木監督や澤穂希のほか、「AKB48」のメンバーの名前もみられた。また、「銭形警部(ルパン三世)」、「スーさん(釣りバカ日誌)」、「葛城ミサト(エヴァンゲリオン)」などアニメの登場人物を挙げる人もあり、文学よりもアニメ・コミック中心の世代であることもうかがわせている。

	男性上司には			女性上司には		
	19年	22年	24年	19年	22年	24年
1	所ジョージ	所ジョージ	所ジョージ 阿部 寛	黒木 瞳	天海 祐希 真矢 みき	天海 祐希
2	島田 紳助	阿部 寛 佐藤 浩市 唐沢 寿明 野村 克也	向井 理	篠原 涼子	黒木 瞳	真矢 みき
3	星野 仙一	ビートたけし 原 辰徳	桜井 翔 関根 勤	和田 アキ子	篠原 涼子	篠原 涼子
4	館 ひろし ビート たけし	館 ひろし	福山 雅治 イチロー	久本 雅美 細木 数子 松嶋 菜々子	和田 アキ子 松嶋 菜々子	仲間 由紀恵 江角 マキコ
5	渡 哲也	イチロー タモリ 関根 勤 玉山 鉄二 佐藤 隆太 桜井 翔 島田 紳助 藤木 直人 明石家 さんま 柳葉 敏郎	明石家さんま 北野 武 渡辺 謙 池上 彰 速水もこみち 西田 敏行 水谷 豊	江角 マキコ 仲間 由紀恵 藤原 紀香 YOU	米倉 涼子 仲間 由紀恵 上戸 彩 山口 智子 江角 マキコ 宮崎 あおい 久本 雅美	香里奈

Q12. 初月給の使いみちは（複数回答：いくつでも）

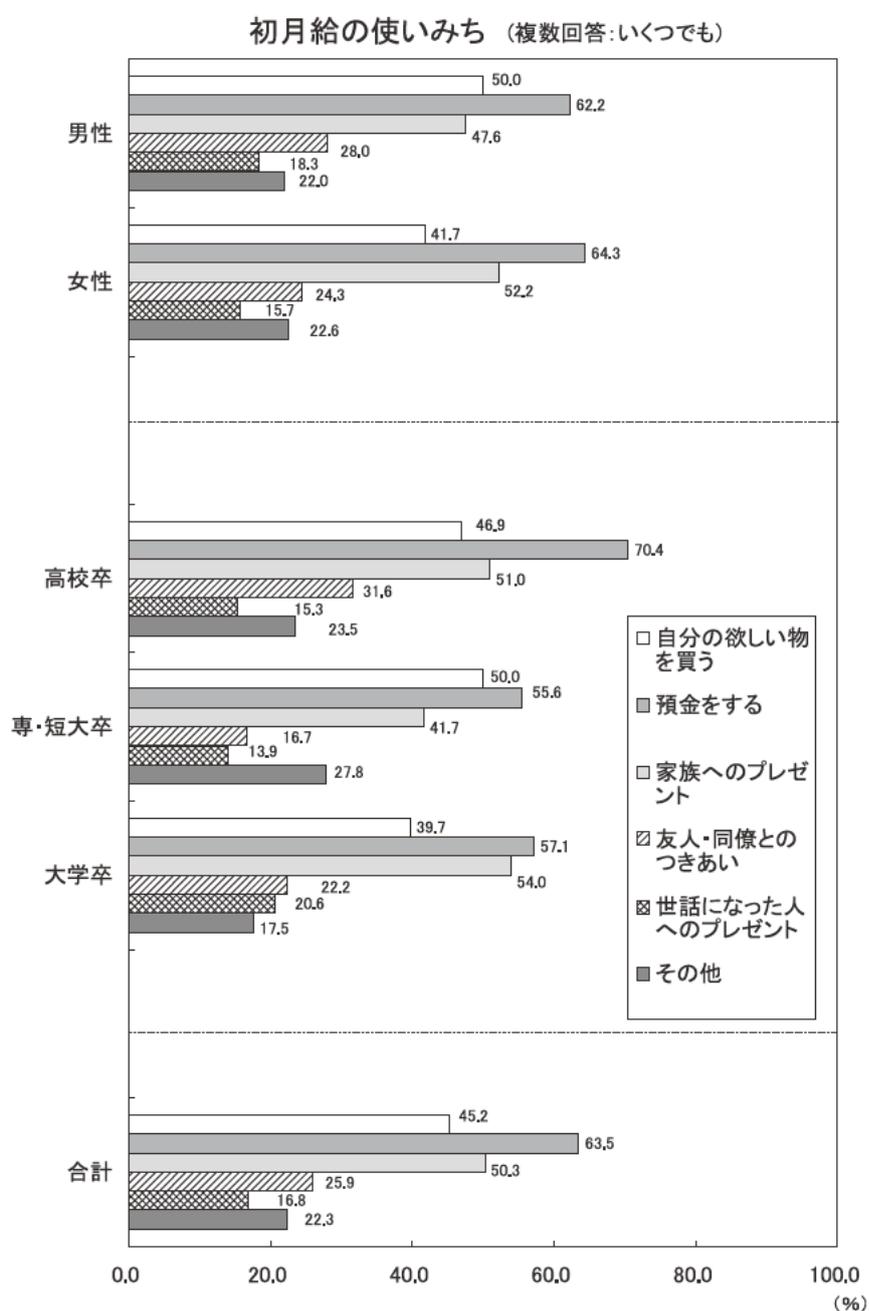
～堅実な計画性、家族への気配り・感謝も～

初月給をもらったら何に使うかを尋ねたところ、「預金をする」が63.5%でトップとなった。次いで「家族へのプレゼント」が50.3%、「自分の欲しいものを買う」が45.2%、「友人・同僚とのつきあい」が25.9%、「世話になった人へのプレゼント」が16.8%の順となった。

男女別で見ると、上位3項目の順位は全体と変わりはないが、「家族へのプレゼント」は女性の割合が、「自分の欲しいものを買う」は男性の割合が高かった。

学卒別にみると、全体と同じ上位3項目にそれぞれ回答が集中しているが、構成割合については幾分バラツキがみられた。大学卒では「家族へのプレゼント」が54.0%、専門学校・短大卒は「自分の欲しいものを買う」が50.0%、高校卒は「預金をする」が70.4%と、それぞれ他に比べて高い割合を示した。

初月給の使いみちに関しては、社会人としてこれからの生活設計への堅実な計画性がうかがわれるとともに、これまで世話になった家族や周囲の人たちへの気配り・感謝の気持ちもみられた。



Q13. 仕事をするにあたり、身につけたい知識・技術は

～「情報処理に関する知識・技能」がトップ～

新入社員が仕事をするにあたり、身につけたいと考えている知識・技術(3項目まで選択)は「情報処理に関する知識・技能」が56.9%でトップ、次いで「経理・財務に関する知識・技能」が46.7%、「語学力」が40.1%、「営業力」が38.6%、「専門的資格」が28.9%などと続いた。今回調査では「特に身に付けたいものはない」はゼロ回答となり、回答者全員が何らかの知識・技術を習得したいという意欲を示している。

男女別にみると、男性は「営業力」、「高度な工学系知識・技術」が同率で2位となったほか、全体に知識・技術の習得に積極的な姿勢がうかがわれた。女性は「情報処理」、「経理・財務」の割合が高かったが、「工学系知識・技術」、「法律に関する知識」の割合は低かった。

学卒別にみると、大学卒では「法律に関する知識」、専門学校・短大卒では「専門的資格」、高校卒では「経理・財務」、「語学力」「営業力」の割合の高さが目立った。

仕事をするにあたり、身につけたい知識・技術(3項目まで選択) (単位: %)

	男性	女性	高校卒	専・短卒	大学卒	合計
情報処理に関する知識・技能	① 51.2	① 60.9	② 51.0	① 63.9	① 61.9	① 56.9
経理・財務に関する知識	③ 40.2	② 51.3	① 56.1	19.4	② 47.6	② 46.7
語学力	36.6	③ 42.6	③ 44.9	③ 27.8	39.7	③ 40.1
営業力	② 42.7	35.7	43.9	19.4	③ 41.3	38.6
専門的資格	29.3	28.7	25.5	② 50.0	22.2	28.9
高度な工学系知識・技術	② 42.7	9.6	25.5	③ 27.8	17.5	23.4
法律に関する知識	24.4	9.6	9.2	8.3	30.2	15.7
特に身に付けたいものはない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	1.5	3.1	0.0	0.0	0.8

次に、その知識・技術を身につけるためにやっていること(2項目まで選択)について尋ねたところ、「特に何もしていない」が41.1%、次いで、「独学で専門誌など購読」が33.0%、「セミナーなどへの参加」が17.3%などと続いた。

男女別でみると、男性は「独学で専門誌など」の割合が比較的高く、「その他」では「上司・先輩に聞く」など仕事の中から学び取る姿勢もうかがわれた。女性は「セミナー」、「通信講座」の割合が男性を上回った。

学卒別でみると、大学卒は「独学で専門書など」、高校卒は「セミナー」、「通信講座」の割合の高さが目立った。大学卒では約7割、専門学校・短大卒は約4割、高校卒は約6割が何らかの形で自己啓発に努めている。

その知識・技術を身につけるためにやっていることは(2項目まで選択) (単位: %)

	男性	女性	高校卒	専・短卒	大学卒	合計
特に何もしていない	① 35.4	① 45.2	① 41.8	① 61.1	② 28.6	① 41.1
独学で専門書など購読	① 35.4	② 31.3	② 21.4	② 25.0	① 55.6	② 33.0
セミナーなどへの参加	② 15.9	③ 18.3	② 21.4	③ 11.1	③ 14.3	③ 17.3
通信講座の受講	7.3	12.2	③ 14.3	2.8	7.9	10.2
専門学校への進学	1.2	0.9	1.0	2.8	0.0	1.0
その他	③ 12.2	1.7	7.1	2.8	6.3	6.1

Q14. 自分をPRする言葉は

～「明るい」、「楽観的」、「協調性」など～

新入社員が自分をPRする言葉は「明るい」が23.7%でトップ、次いで「まじめ」が18.0%、「楽観的」が15.5%、「努力家」が12.9%などの順となった。これまでの調査同様、今年の新入社員も「明るく楽天的な人物である」との自己PRが多かったが、今回調査では「まじめな努力家」をアピールする割合も多かった。

男女別でみると、男性は「まじめ」が24.7%でトップとなり、次いで「楽観的」、「明るい」の順となった。前回調査で2位の「まじめ」は8.6ポイント増加したほか、「努力家」、「誠実」も幾分増加した。一方、女性は「明るい」が30.1%でトップとなり、「努力家」、「楽観的」、「まじめ」の順となった。また、今回調査では男女とも「協調性」の割合が大幅に低下した。

学卒別でみると、順位、割合に幾分バラツキがみられた。大学生は「まじめ」がトップとなり、「誠実」の割合の高さが目立った。専門学校・短大卒は「楽観的」の割合が3割を超えトップとなった。高校卒は「明るい」がトップとなり、「忍耐力」割合が他に比べて高かった。

	男性	女性	高校卒	専・短卒	大学卒	合計
明るい	③ 14.8	① 30.1	① 31.6	14.3	② 16.4	① 23.7
まじめ	① 24.7	13.3	② 16.3	② 20.0	① 19.7	② 18.0
楽観的	② 17.3	③ 14.2	③ 12.2	① 34.3	9.8	③ 15.5
努力家	9.9	② 15.0	③ 12.2	③ 17.1	11.5	12.9
忍耐力	7.4	8.8	10.2	0.0	9.8	8.2
誠実	9.9	6.2	5.1	2.9	③ 14.8	7.7
協調性	4.9	5.3	4.1	2.9	8.2	5.2
体力	4.9	5.3	7.1	5.7	1.6	5.2
適応力	6.2	1.8	1.0	2.9	8.2	3.6

19年男性		22年男性		24年男性		19年女性		22年女性		24年女性	
まじめ	20.3	楽観的	16.1	まじめ	24.7	明るい	27.9	明るい	19.7	明るい	30.1
明るい	15.2	まじめ	16.1	楽観的	17.3	楽観的	17.4	楽観的	18.2	努力家	15.0
楽観的	12.3	明るい	14.3	明るい	14.8	忍耐力	16.3	協調性	18.2	楽観的	14.2
忍耐力	11.6	協調性	14.3	努力家	9.9	忍耐力	10.5	まじめ	15.2	まじめ	13.3
努力家	11.6	適応力	8.9	誠実	9.9	努力家	10.5	努力家	12.1	忍耐力	8.8
誠実	8.7	忍耐力	8.9	忍耐力	7.4	誠実	8.1	適応力	7.6	誠実	6.2
体力	8.7	努力家	7.1	適応力	6.2	適応力	5.8	体力	6.1	体力	5.3
協調性	6.5	体力	7.1	体力	4.9	協調性	3.5	忍耐力	3.0	協調性	5.3
適応力	5.1	誠実	7.1	協調性	4.9	体力	0.0	誠実	0.0	適応力	1.8

社会人となり、改めて感じることは

最後に、「社会人となり、改めて感じていること」を自由に記述していただいた。今回も社会人としての責任感に関する記述が多かったが、新入社員の本音が聞こえてきそうで大変興味深いものが多かった。学生と社会人との環境の大きな違いに戸惑いながらも決意を新たにしている様子が見えられた。

- 時間の規則が厳しくなった。思っていたより甘くない。 (高校卒、男性)
- 自分のためよりも他人のために尽くすという意識が強くなった。 (高校卒、女性)
- 社会に出る覚悟はしていたが、忍耐力、努力する気持ち、根性が足りないと改めて感じた。 (高校卒、女性)
- 責任の重さは学生アルバイトと比べ物にならない。 (専門学校卒、女性)
- 自分の力で生きていけるよう、基礎能力を高めていきたい。(短大卒、女性)
- 学生時代と比べて時間がないことを実感、一日一日を大切にしていきたい。 (大学卒、男性)
- 学生のように守られる立場でなくなったと感じる。 (大学卒、女性)

人間関係、生活の変化に関する記述も多かった。これまでの対等な仲間づきあいから組織の上下関係、あるいは自由な生活から仕事中心の生活への変化に戸惑っている記述が多かった。

- 日常の行動一つ一つの責任感が重く感じる。仕事中心の生活になった。 (高校卒、男性)
- 言葉遣いがなっていなかったことが恥ずかしかった。 (高校卒、女性)
- 仕事に取り組む上での協調性や積極性が大事。 (専門学校卒、女性)
- 上司・先輩やお客様とのコミュニケーションと同時に体調管理も大事である。 (短大卒、女性)
- 上司・先輩はビジネスマナーが自然にできている。まず、挨拶、返事、メモなどから始めていきたい。 (大学卒、男性)
- 日々の仕事が忙しく、休みの日ありがたい。 (大学卒、男性)
- 行動に移す積極さが必要。周囲とのコミュニケーションに難しさを感じている。 (大学卒、女性)

ただ、一方では環境の変化に悩みながらも、新入社員らしい初々しきで立ち向かっていこうとする姿勢がうかがわれる記述も多かった。

- 両親の仕事の辛さを痛感、仕事をしてお金を稼ぐことに達成感がある。
(高校卒、男性)
- 自分の欠点を自覚し、どう改善していくか、誰のために、何のために働いているのか、目標、自覚を持って生活していきたい。
(高校卒、女性)
- コミュニケーションは人との接し方が大事、まず自分が変らなければ。
(高校卒、女性)
- 辛くても笑顔の対応、責任を持って仕事に臨みたい。(専門学校卒、女性)
- わからないことはどんどん質問して、早く一人前になりたい。
(大学卒、男性)
- 覚えることがたくさんあり、不安も多いが、会社や地域に貢献できるよう努めたい。
(大学卒、男性)
- 好き勝手な行動は制限されるが、責任感を持って行動する環境に新鮮さを感じる。
(大学卒、女性)

そのほか、我々先輩社員に考えさせるような、悩みや助けを求めているような記述もあった。

- 仕事の内容より人間関係が大変。せめて同期が欲しかった。(高校卒、女性)
- 初めのうちは、なかなか会社の役に立てないことを痛感。(高校卒、女性)
- もっと自由な時間が欲しい。(専門学校卒、男性)
- 今までに得た知識を仕事に活かすのは難しい。(大学卒、男性)
- 仕事の内容が多く、これからやっていけるのか不安。(大学卒、男性)
- 会社に入って、現実と理想は、やはり違うと実感した。(大学卒、女性)

(以上、担当 野里)

発行日 平成24年8月2日

発行 株式会社青森銀行
青森市橋本一丁目9番30号
電話 017 (777) 1111
作成 一般財団法人青森地域社会研究所
青森市新町二丁目2番7号
電話 017 (777) 1511

印刷 北方商事株式会社
青森市港町二丁目6番6号
電話 017 (744) 1555

